

2017 晩秋蚕期(8/22 掃き立て) 山鹿の先輩農家さんと一緒に稚蚕飼育を行いました。

【1-1】8月22日(火曜)晴 27℃-湿 90%

- 8:00 蚕種受け取り。孵化具合を見ながら、
- 12:00 に掃き立て 蚕体消毒→給桑→防乾紙→黒網 (120g/20000)
- 21:00 混ぜる→扨座→給桑 (140g/20000)



蚕種がこれまでの 1p 当たり 5000 個から 20000 個になっていた。次回確認。5000の方がやりやすい。前回の春蚕から掃き立て日の孵化が揃っていない。これは後々まで影響するので要確認。

【1-2】8月23日(水曜)晴 27℃-湿 90%

- 8:00 桑取
- 9:00 分箔(1/2)→扨座→給桑(110g/10000)
- 21:00 扨座→給桑(200g/10000) 防乾・黒網



昼夜の温度差が激しい。昼は冷房 31℃設定・夜は暖房 25℃設定で、良い塩梅に室温が一定に保つ。湿度は大型加湿器・エアコン回りに濡れたタオルケット2枚・バラに保湿用新聞で 90%OK。

【1-3】8月24日(木曜)晴 27℃-湿 90%

- 8:00 桑取
- 9:00 分箔(1/2)→扨座→給桑(90g/5000)
- 19:00 せめ桑(70g/10000) 乾燥を促すため防乾・黒網・濡れ新聞・タオルケット外す。



3日目体が白くぷっくりしてきた。

【2-1】8月25日(金曜)雨→晴 26℃-湿 85%

- 5:00 バラめいっぱい扨座→石灰(9割眠に入っている)
- 12:00 各バラに数頭脱皮しているのもある。
- 15:00 8割起蚕
- 21:00 ほぼ起蚕 縮座→消毒→網掛け→給桑(200g/5000)
- 防乾・黒網・加湿・タオルケット戻す。



【2-2】8月26日(土曜)雨 26℃-湿 85%

- 8:00 給桑(280g/5000)
- 16:00 床替え。
- 給桑(350g/5000)→結構残っていたのでパラパラ程度に。新聞保湿も戻す。
- 夜はまだ残っていたので給桑せず。



床替えは綺麗に上がっていた。桑は様子を見ながらかつかつ給桑。

【2-3】8月27日(日曜)晴 26℃-湿 85%

- 7:00 給桑(320g/5000)
- 17:00 せめ桑(100g/5000)→少な目に。保湿全て取る。
- 22:00 パラパラと眠に入っているのを確認。



蚕が前に偏るため次回は毎給桑時にバラを前後に入れ替えて戻す。

【2-4】8月28日(月曜)晴 26℃-湿 85%

- 9:00 分箔→扨座→石灰(2割ほど眠に入っている)
- 12:00 脱皮済みもちらほらいるが、半数は眠前。
- 21:00 予定では桑付けだったが、3割程眠前の為桑付けせず。



自宅での稚蚕飼育はお蚕さんの成長具合をちょこちょこ見ながら予定を組み直せるので気持ちにゆとりが持てる。

【3-1】8月29日(火曜)晴 25℃-湿 80%

●5:00 消毒→網掛け→給桑(340g/2500)

3 令からは保湿：加湿器・タオルケットのみ

16:00 給桑(450g/2500)



桑葉裁断機の修理が間に合わず包丁で刻んでいたが3 令からは給桑量が多く大変。次回必須。

【3-2】8月30日(水曜)晴 25℃-湿 80%

●8:00 床替え→給桑(500g/2500) 少な目

19:00 石灰→網掛け→給桑(450g/2500)



【3-3】8月31日(木曜)晴 25℃-湿 80%

●8:00 床替え→給桑(340g/2500)

数頭眠に入る。

17:00 せめ桑パラパラ程度。半数ほど眠に入る。



1・2・3 令除沙の際、遅れは次回別にしてみる。

【3-4】9月1日(金曜)晴 25℃-湿 65%

●5:00 石灰・ほぼ眠に入っている。

明日に備え桑葉大量に刻む。

18:00 7 割程起蚕。



成長遅れもいるので、明日はバラのまま配蚕。

【4-1】9月2日(土曜)晴

●8:00 消毒→網掛け→給桑

12:00 バラのまま配蚕。

16:00 蚕台に移し給桑。

バラに残った分は網掛け→給桑→一番遅れゾーンへ移動。



稚蚕飼育所でご指導いただいていた先生が遥々山鹿まで見に来てくださいました。

『しっかり育っとる。ばっちりやん。』との言葉をいただき安堵。嬉しかった。

【4-2】9月3日(日曜)晴

【4-3】9月4日(月曜)雨

●給桑・朝昼晩をベースに様子を見ながら都度。

雨の日・気温が低い日は少な目に。

小さめや遅れはかつかつ拾って遅れゾーンに。

4 令は蚕台 1 列。次回は真ん中の台で、拡げすぎないようにする。5 令での拡座・起蚕分けがしやすい。

【4-4】9月5日(火曜)雨

●朝昼晩をベースに様子を見ながら都度給桑。

15:00 動き止まる。



豊野の飼育所に網を取りに行く。5 令であつたら便利かも、と思ったのだが、結果使わなかった。次回サイズ確認。

先輩農家さんと、『これからの 5 令期に備え体力をつけよう』と食事へ行った。

育蚕に関するいろんな知恵を聞かせてもらう。

お蚕さん・養蚕に対する誇りと惜しみない愛情を感じる。

【4-5】9月6日(水曜)晴

●5:00 8 割眠▲。

6:00 石灰→網かけ→桑少量(1 時間で外し遅れ③へ)

17:00 ③石灰 ①は 3 割起蚕



【5-1】9月7日(木曜)晴

●6:00 ①8割起蚕

◎次回はこころへんで早口を分ける(枝)

16:00 ①消毒→網掛け→桑(葉)



このタイミングで早口遅口に分ければ、さらに上簇がしやすかったと思う。次回の課題。

【5-2】9月8日(金曜)晴

●5:00 ①拈座→給桑(今回はここで①②に分けたが、早口遅口あまり分かれていなかった。)

8:00 ③消毒→網掛け→給桑

小さい成長遅れなどを毎日かつかつ拾う。ここで成長過程5つのゾーンに分かれる。



明日からが給桑大詰めのため大量に桑取。【孵化から5-2】【5-3から上簇】まで同量の桑が必要。

【5-3】9月9日(土曜)晴

●5:00～ 朝昼晩をベースにかつかつ給桑・気温が高くさらに食べるペースが早い。

夜の気温も高いので多めに給桑。



この日は、昆虫が大好きな男の子親子が見学に来てくれました。最近、虫が苦手。という話を聞くことが多かったので、『昆虫が大好き』で、嬉しそうに楽しそうに昆虫の話をする男の子の話がとても面白くて尊敬した。

いつの日か『こども科学電話相談』の矢島氏のようになるんじゃないかと密かに期待した。

【5-4】9月10日(日曜)晴

●5:00～ 朝昼晩をベースにかつかつ給桑。

日中蚕室の温度が30℃を超える。噴霧器で氷水を巻くが1℃程しか下がらず。

次回扇風機をもう1台と、温度を下げる案を考える。(扇風機後にドライアイスとか？検討)

明日の床替えに備え、葉っぱのみを大量に用意する。



熊本県の養蚕農家は現在3軒。この日は3軒が集結。育蚕期、皆で集まったのは初めてで嬉しかった。たくさん話をしたが、言葉だけでは伝えられない心の部分で分かり合える会話をしていたと感じる。お蚕さんに対しての思い、肉体・精神の疲労を超える喜び、心の根底にある思いを共有しながらの会話は、言葉を超えている。私はまだまだ6年目、先輩方は50年以上の歴史。養蚕を取り巻く様々な時代を経て来た先輩方と同じ温度で話すのはいつも恐縮だが、受け入れてくださっていることにとても感謝している。

【5-5】9月11日(月曜)雨

●4:00～石灰→網掛け→給桑(葉) どれだけ給桑してもすぐ食べつくし真白になる。

14:00～床替え(4時間で終了)

明日も雨予報なので桑を大量にとる。



5 令期最初の床替え。姉と宗さんが手伝い。毎回骨を折る作業だが、今回はこれまでに踏まえ万全に準備を整えたので、どれだけ作業が効率よく進むか楽しみだった。結果、驚くほどスムーズに、そして、お蚕さんがかつれさせることなく行えた。蚕台の網の張り方・残座の運び方と一時置き・必要道具の置き場・動線の確保、など、実験も兼ねてさまざまな工夫を施したが、段取り八分、今までで一番スムーズにいった。なにより、人間の疲労もとても軽減された。

【5-6】9月12日(火曜)くもりのち晴

●温度が低い夜は様子を見ながら給桑。食欲は本日がピーク。

明日の床替えに備え、葉っぱのみを大量に用意。



どれだけ給桑しても果てしなく食べる。もうここまででいいかな、と思ってしまいそうになるが、『今日この日の為に1年間畑仕事頑張ってきたんじゃないか。』と、自分を奮い立たせ桑を切る。こんなに食べるのはあと2日程。寂しい気もする。が、どんだけ食べるんだよ、、とも思う。桑の管理を頑張ってきたので、うちの桑葉がとても美味しいのだろうと自分に言い聞かせ夜な夜な桑をくべる。たくさん食べてくれることはとても嬉しく喜ばしい事。そして桑が潤沢にあることはとても安心する。

【5-7】9月13日(水曜)晴

●5:00～①②石灰→網→桑(葉) この日より葉のみ給桑

12:00～①②床替え

15:00～はな 20 頭程



姉の手伝いがあり、今回の床替えもスムーズに終わった。育蚕は対で行う作業が多いが、息が合わないと結構大変になる。姉とはあうんの呼吸で行うことができ、そしてなにより、育蚕に対し細かく神経質な私の性格を尊重してくれる心の広い姉にいつも感謝している。

15:00～はなが数十頭程でた。明日の午後上簇が始まることを予測して、上簇の準備を行う。

【5-8】9月14日(木曜)雨

●5:00～③石灰→網→桑(葉) この日より葉のみ給桑

12:00～③床替え

14:30～上簇(14:30～1:00)

【5-9】9月15日(金曜)雨

●12:00～上簇(12:00～23:00)



上簇は、熟蚕を手拾いしている。今回、一斉上簇を試みようと思ったが、やはり手拾いの方が確実なものと、量が小規模なので手拾いで十分のようだ。

今回も姉と宗さんと3人で行った。

とてもスムーズに上簇が行えた。上簇のタイミングは繭の良し悪しを左右し、そしてとても重労働な作業だが、色んな事を皆で予測し段取りを頑張ったことと、なにより3人のチームワークの良さで、とても良いタイミングで上簇ができた。

それぞれがどう動けばスムーズに進むかが分かっていて、とても息が合っていると思う。

そして、良い繭にしたいね。と同じ思いで作業を行えるということはとても貴重で、上簇を快適に行える一番の大きな要因だと思いました。

【上簇後】

●立ち虫拾い(9/17～)

簇に入っても場所を決めれず這いまわっている蚕を別の簇に移す。

今回は上簇から雨が続き湿度が高く糸が柔らかいため、通常より時間をおいて別簇に移した。

上簇後3日間ストーブを2台焚いた。

一番遅れていた1000頭程は、9/16～9/28まで上がり続けた。すごい開きがあったが、最後の1頭まで立派な繭をつくった。



●収繭(9/21～)

上簇9日目から収繭。

簇を日にかざしたり光をあて、繭の中で蛹になれなかった(しにこ)を丁寧に外し収繭機(毛羽取り機)にかける。

ここで見落としがあると、ほかの繭を汚してしまうので確実に外す。

日中温度が高い日が多かったので心配していたが今回はとても少なかった。



●乾燥(9/21～10/6)

収穫後、乾燥庫に 10kg づつ入れ乾燥。2 軒分。

10kg あたり 15 時間乾燥するが、最初に 8 時間で一巡し、2 巡目で 7 時間、43%まで乾燥。

計量→乾燥→計量→圧縮袋詰め→パレット交換を昼夜繰り返す。蛹の状態を考え時間も限られてくるので、効率よく乾燥できるよう、ものの配置・道具・動線などを工夫した結果、かなり、スムーズにいったと思う。先輩農家さんも私も、大切に、頑張って育てたので、最後の乾燥で失敗するわけにはいかない。

良い繭の状態出荷ができるよう、来年に向けてさらに知恵を絞ろうと思う。



●栗の収穫・出荷(9/20～10/10)

栗の落下が予想していたより早く始まり上簇と被ってしまったので、出荷初期 5 日程は収穫が出来なかった。収穫の下準備も、もう少し早く終わらせておくべきだったと反省。

来年の秋蚕は掃き立ての時期をよく考え、先輩農家さんに相談したいと思う。

収穫最盛期はご近所さんや先輩農家さん姉が手伝いに来てくれ、どうにか全て出荷することが出来ました。熊本は今年栗のなり年だったらしく、毎日市場が栗で埋め尽くされていた。栗山は、草刈りくらいであまり手をかけていないけれど、こんなにたくさんの実を付けてくれて、自然の恵みに感謝です。

今年も栗の季節に天蚕(やまゆ)が飛んできました。



●繭の出荷(10/11)

10 月 11 日、製糸工場へ向けて、繭を出荷しました。

繭の出荷は、とても嬉しいです。

それまでの、年間を通しての、いろいろなこと、いろいろな思いが報われる瞬間です。

良い出来だと自分で思えば尚更です。

農家として養蚕を行えるということ、この時代に製糸工場へ出荷をさせてもらえること、農家がたくさんの知恵、そして惜しみない労力をつかい、良質な糸になるための繭を育て、その繭が工場で立派な糸にもらえること、全てに感謝しています。

私がお蚕さんにできる事、かえせることはこれしかありませんし。

出荷することが許される間は農家として、さらに腕を磨いていきたいです。



6 年目にしてようやく、自分の成長を感じることが出来ました。

そしてこれまでたくさん考えてきた事、学んできたこと、理想としてきたことを、バッチリと具現化できた感じがしてます。

来年はもっともっと良く出来そうな気がしてます。

育蚕中はたくさんの方々にお世話になりました。

本当にありがとうございました。